

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1271900258		
法人名	株式会社 セブンワーカーズ		
事業所名	グループホーム天鼓		
所在地	千葉県匝瑳市飯倉台10-15		
自己評価作成日	平成30年10月25日	評価結果市町村受理日	平成31年1月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生1107-7		
訪問調査日	平成30年11月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・季節の食材をふんだんに取り入れ、見た目にも華やかな食事を心がけている。「今日は何？」と皆が楽しんでくれる。ご飯が美味しいとの詩を詠んでくれる利用者様もいる。 ・利用者様全員に主治医が往診にきてくれる。 ・月2回の定例研修にはほぼ全員のスタッフが参加、外部研修にも多くの職員が参加出来るような制度がある。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>職員は理念に基づき、利用者一人ひとりの思いを大切にしよう心がけている。食事は地域で取れた野菜を使い、季節感を出すように工夫しており、利用者の希望でメニューを決める事が多い。また、外出もできるだけ利用者の意向に沿って出るようにしており、利用者本位のケアの実践に努めている。職員のケアの質の向上のために、内部研修、外部研修に積極的に参加できるように体制を整えている。また、他施設で受け入れが難しい利用者も受け入れているが、利用者が穏やかに過ごしている様子を見ることができた。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ ①ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ ① ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ ① 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ ① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ ① ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	① 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ ① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ ① ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ ① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ① ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ ① ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ① ほぼ全ての家族等が ② 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ ① ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全員で考えた今年の目標や基本理念があり、行動のベーシックや防災マニュアルを共に壁に貼り、毎朝読み合わせを行い、理念の共有、実践している。	理念は職員が話し合いで作り上げ、地域とつながりながら住み続けられるように、理念に沿って支援している。、いつでも見られる場所に掲示し、朝の申し送り時に確認して共有に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ゴミステーションの掃除やゴミ運動には、ご利用者様と共に参加している。事治会に入会、回覧板も天鼓に廻ってくる。掃除当番もある。直売所やコンビニ等利用者様と買物に行っている。天鼓の畑の芋掘り等近隣の皆様と一緒にいる。	地域のごみゼロ運動や、ゴミステーションの掃除に利用者と一緒に参加したり、ホームに隣接した畑の作物の収穫を利用者や近隣住民と一緒にいる。また、地域の商店に利用者と一緒にいくなど地域とのつながりを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で、皆様の日常を報告させて頂いている。会議に参加される皆様と一緒に認知症勉強会も恒例となっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月間のご利用者様の生活についての報告を行い、事例に基づいた問題点等話し、皆様より意見をもらっている。	運営推進会議を2か月に1回開催し、「運営推進会議報告」や「グループホーム天鼓の生活」(ホーム便り)で利用者家族に報告している。運営推進会議に参加した利用者家族の意見は、サービスや運営に活かすようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には、市担当者のお出願している。施設ケアマネ会議等市町村の勉強会に出席、地域の問題点を把握、サービスにつながるよう取り組んでいる。	運営推進会議には市の職員などの参加がありホームの状況を報告している。また、市が主催する施設ケアマネ会議に参加して現状の把握に努め、サービスの質の向上につなげている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月行っている定例会議で、身体拘束について皆で学ぶ機会を作っている。玄関の鍵はかけず、いつでも開いている。ベットや車椅子での拘束はしていない。	身体拘束をしないケアについて、毎月の定例会議で共有している。夜間以外は施錠せずに見守りで対応している。また、職員の言葉遣いで気になることがあれば、その都度、職員間で話し合うようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定例会議や天鼓会議などで、何が虐待であるのか、全員で学ぶ機会を持ち、虐待防止に努めている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加する。権利擁護に関する制度の研修も行っている。不適切なケアがなされていないか、朝の申し送りや天鼓会等振り返りの場を設けている。又、施設の理念にも「礼節の心を持って尊厳ある人生を支える」と、位置づけしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の前に見学をしてもらう。不安や疑問点を伺い、十分な説明をさせて頂く。又、解約・改訂時も書面を持って十分な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に1回運営推進会議・家族会を開催。ご家族・地域の皆様参加、沢山の意見や感想を聞かせて下さる。(毎回議事録に掲載)。家族会での意見・要望等会長を通じ頂いている。	家族の来訪が多く、来訪時に話がしやすい環境づくりに心がけている。運営推進会議や、来訪時に聞いた意見を大切に、できるだけ早く改善につなげるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や聞く機会を設け、反映させている	職員は、意見や要望、日々の気付きを、全員が周知出来るよう、毎月の定例会議や申し送りノートで提案出来るようになっている。行事の提案や勤務時間等スタッフの提案や希望を管理者は日頃より聞き入れ、何でも言い合える環境を作っている。	天鼓会議や全体会議で、職員全員が発言する事ができるように会議を進めている。毎日の連絡ノートにも意見を書くことができるようにしている。意見が出た時には反映できるように検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりの個性・得意とするところを伸ばしやりがいをもち仕事出来るよう配慮している。又個々の家庭環境をふまえ、働きやすいよう勤務時間を考慮。親の介護・子育て等時間を考えてくれる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本人希望によって、内外の研修への応援制度を設けている。全体研修や天鼓研修会への参加者には表彰制度も設けている。実務者研修にも参加出来るよう自動的に有休ももらえる等シフトも考慮してくれる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の他職種連絡会や通所・施設ケアマネに参加し交流の機会を作り、サービスの質の向上に繋げている。他事業所交流会主催による、排泄ケアの講習会に数名で参加、オムツの使用法について学んでいる。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメント作成時にご本人やとりまく環境等を、スタッフ全員で情報共有し、不安無く生活出来るようにし、本人の意向を大切に支援するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が、困っている事や悩んでいる事を聞き、不安に対し、天鼓での生活の支援体制を説明し、不安無く生活出来る事や、利用者主体であることを伝えるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の問題点と家族のレスパイト等を分けて考え、今後互いに良い関係性を保つ事が出来、ご本人も安定し過ごせるようにしている。必要に応じ、インフォーマルサービス等もすすんで取り入れる。地域の人達とも交流出来るよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフと一緒に掃除をしたり、洗濯物をたたんだり、料理や買い物、ゲームや作品作り等生活や楽しみを共有出来、相互で話し合い作業をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	敬老会では、家族と一緒に食事をし、民謡を唄ったり、踊ったりと楽しい一時を過ごした。推進会議にはご家族様も一緒に食事の準備を行ってもらった。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会の連絡や来所される時には、どんどん来てほしいと伝える。又本人との会話の中に出てくる人の名前を家族に聞く事もある。可能な限り面会や外出等して頂けるよう支援している。今までつながりの合ったお友達と食事に行くこともある。	利用者の家族や友人の来訪を積極的に受け入れるようにして、関係が途切れないように支援している。また、お稽古事や、OB会に友人と一緒に出かけたいなどという希望にも応えられるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	BPSDが強くなると、孤立しがちなので、スタッフが間に入る等、クッションになったり言葉に出来にくい声を伝える役目を担う事もある。興奮している利用者様に他の利用者様が「ここに座ってお話しようよ」と声をかけてくれる事もある。利用者様同士の会話を見守っている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	直近な例では、長期に入院されている利用者様、時々見舞いに伺う。たまたまお店で買物をする家族に職員が出あい、早く天鼓に帰りたいと聞き、施設長、病院側との話し合い、結果、早々に退院となる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握している。困難な場合は、本人本位に検討している	食事の時間や入浴中等ご本人が話やすい場を作りゆっくりお話を聞く。又は笑顔等の表情の変化、言葉以外の情報を共有、言葉でのコミュニケーションの困難な方には思いを組みとり共に行動する。毎日時間を決めその人だけとむきあいお話を聞いた。	職員は日常の関りの中で利用者の言葉に耳を傾け、思いや意向の把握に努めている。コミュニケーションが困難な利用者は表情や行動などを観察しながら、その人にとって暮らしやすい生活になるように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人の話をゆっくり聞く、又は、入居前や面会時にご家族様にどのような事に感心を持ち、どんな事を楽しんでいたかを確認する。テレビやパソコンを持って来る人もいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	高齢で心臓の悪い人、震災のトラウマがあり室のドアを閉める事が出来ない。以前習った手話、皆の前で教えてくれる。民謡の先生はレクの時間皆をリードしてくれる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月2会の定例会で、その人に必要なケアについて話し合い情報を共有、出席出来ない人には連絡帳を利用情報を共有する。よりよいケアが出来るよう看護師や時にはDrも参加してくれる。	毎月の定例会で5~6人のカンファレンスを行っており、利用者によっては医師にも参加してもらい意見を聞いている。介護計画はカンファレンスの内容や日常の様々なケア記録をもとに作成し、定期的にモニタリングを行い見直しにつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のケア計画、スタッフ全員が分かりやすいよう生活記録に添付、毎日モニタリングが出来るようになっている。特記事項は、赤で欄外に記入、変化を分かりやすいようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの体調に合わせ、散歩や外出、朝のモップがけや野菜の皮むき等を通し残存機能が維持できるよう支援する。発熱時の受診等家族の状況に応じ、スタッフが同行する。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアによるピアノや民謡、畑作業等の活動を通じ個々の利用者様の持っている力(資源)活かし毎日楽しく過ごして頂けるよう声かけや誘導をする。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月一回かかりつけ医による往診。協力医との連携はとれている。発熱等急な体調の変化、電話での相談も気軽にに応じてくれる。	かかりつけ医の受診については、家族の希望を尊重しているが、ホームの協力医に移行した家族が多い。看護師による毎朝のバイタル測定や日々の健康チェック、月1回の協力医の往診などで利用者の健康管理を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調や薬の変化等看護師が分かりやすく説明をしてくれる。日々のちょっとした変化も看護師からDrに情報提供をしている。夜間の急変時もTELにて対応、状況に応じた介護方法を指示してくれる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時の速やかな情報提供を行い、入院中は面会に行く。普段から医療関係者とのより良い関係を作る為、施設長、看護師による医療関係者への働きかけを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	Drから終末期との説明をご家族様、施設一緒に聞き、その後の方針について話し合いをする。ご家族様が泊まってくれる等チームで連携し支援している。運営推進会議では「看取り・死との心と体」をテーマに数回にわたり研修を行った。	重度化、看取りの指針を作成し、家族に説明した上で同意を得ている。利用者の様子を見ながらその時期になったら、医師の判断を仰ぎ家族の協力を得ながら、看取りの支援をしている。ホームは看取りの経験も多く、研修や勉強会を開催し、知識を積みながら利用者向き合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定例研修にて、急変時の対応や事故発生時の応急手当の訓練を行っている。終末期には、一人ひとりの症状の違いや対応についてDrと看護師が指導してくれる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立ち会いによる防災訓練・火災訓練は毎年2回、ご近所の皆様も参加して行う等地域との協力体制を築いている。運営精神会議でも、皆様から「きょうりよくするよ」との言葉を頂いている。	ホームでは火災時の消火や避難、夜間想定訓練など、利用者や近隣住民の参加を得ながら実施している。また、昨今の台風や竜巻などの災害も想定した訓練も行っている。災害に備え、食料品や自家発電機などの用意もあり、食品関係は定期的に見直し確認をしている。	

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄時はご本人の傍に行きそっと声をかける。介助の為にトイレに入る以外はドアの外で見守る。ご本人の意思を尊重し、無理な声かけをせず、本人のペースで生活出来るよう見守る。	ケアを急いだり不適切な言葉かけなどは、職員間でその都度注意し合いながら支援している。また、利用者の部屋に入る時にはノックをする、トイレのドアは閉めて介助するなど、プライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	やりたいことや食べたい物の希望は、すぐに出来るよう対応している。テレビで、旅番組や料理を見たり、話をして楽しいんでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一りのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望で折り紙で作品を作ったり、ゲームをしたりしている。皆で協力しちぎり絵等を作っている。居室での個別活動も支援している。野菜の皮むきはしたくないけど洗濯物たたみはするよと言うモップで掃除する人、新聞紙でゴミ袋を作る人がいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるようにしている	入浴前に着替える洋服を自分で選んでもらう。近所の美容師さんがお話をしながらカットしてくれる。ご家族様がなじみのお店に連れて行ったり、美容院の方が迎えに来てくれる事もある。髪を染める。洋服や化粧品を一緒に会に行く。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みを活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食片づけをしている。	何が食べたいか希望を聞きメニューに取り入れる。いなり寿司は自分でご飯を入れる。ホットプレートを使い皆一緒にお好み焼きや焼きそばを作る。野菜の皮むきやカット、食事前にお茶を入れてくれる。家族様に頂いた旬の物をメニューに加える。(餡パンが食べたい・タイ焼機が良い)と言う。常にメニューには関係なく対応。ご飯がおいしいと詩に詠んでくれる。	大まかな献立は立てているが、利用者の希望を聞きながらその日のメニューを決めることが多い。時には総菜の購入や出前をとることもある。また、ホームの畑で収穫した野菜なども使いながら、食事が楽しみになるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	大きい物や硬い物は調理法を考え食べやすい工夫をする。飲み込みの心配な人はトロミをつける。肉を食べられない人は他の食材で作る。水分不足にならないようジュースやほうじ茶等好きなものを飲んで頂く。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士指導のもと、個々のケア方法を作成毎日歯間ブラシ使い、舌洗いも行っている。インフルエンザ等の感染予防のため、洗面所にうがいようのお茶を用意、日に何度もうがいをしている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄が重要な為、訴えによる誘導。便座に座位し排泄を促す。オムツの使用を減らしている。訴えの無い人には2時間置きに誘導する。	トイレでの排泄を基本としている。また、自然な排泄を促すために食材や水分に配慮している。自宅ではおむつを使用していた利用者が段階を経て、パンツに移行した事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食にオリゴ糖入りヨーグルトや寒天ゼリーを提供、10:00にバナナジュースを飲んでもらう。水分摂取量に気を配り好きなジュースやスポーツドリンク等摂取する。排便無時は腹部マッサージや運動をする。牛乳や繊維の大きい物を食べて頂く。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	外出や外での作業等汗をかいた時は率先して声かけ入浴を促します。普段は希望に応じ入浴します。失禁の時は入浴を行いますが、拒否が強い時は陰洗を行います。	毎日お風呂を沸かし、一日置きに入浴の声かけを行っている。入りたくないという利用者には「天鼓温泉に行きましょう」と声かけをしたり、歌を歌いながら誘導するなど工夫をしている。入浴中は職員と会話をしたり、歌を歌ったりして、入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じ息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具の清潔を心がけ体調や希望により昼寝をします。特に夏場は室温・湿度を、時間を決め日に数回チェックし、気持ちよく休んで頂けるようにしている。又、体調が悪い時は自己管理が難しいので声かけしたり、付き添う等の対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は看護師と管理者が、体調の変化がある時等Drへの状態報告、往診時の立ち会いにて確認。個々の仕分けは担当が行う。ロッカーから出す時、配薬前に個人記録にて見直し、個々に飲んでもらう時と3回の確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の適正を考え、家事の手伝い、生け花、民謡、手話等利用者様为中心になり行ってもらえるように体制を整え、個々に楽しめるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やスーパーの買物、花見や祭りや運動会等一年を通し、外出します。ご家族様や友人の協力でも外出する時もあります。	天気の良い日は近くの公園にベンチを持参し、休めるようにして散歩を楽しんでいる。また、年間行事で季節の花見や祭り見学、自家菜園での芋ほりなど、外に出る機会を作っている。時には近くのコンビニエンスストアでの買い物など、利用者の要望に沿って支援している。	

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理の出来る人6名は自分でサイフを持ち自分の意志で物品を購入している。お金を口に入れたり、トイレに流す人があるので自己管理出来ない人は、事務所で預かっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯を持っている人が4名いる。家族や友人から手紙がきたら本人に届けている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴レ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やホール、居室には季節の花やハロウィンのかぼちゃを飾っている。居室には使い慣れたソファや椅子、家族の写真を飾る。季節を大切に皆で作った製作物、皆の見える場所に飾っている。温度・湿度は午前・午後に確認記録する。テーブルの上の花や飾り物は食べてしまうので飾れない。	ホームは掃除が行き届き清潔感がある。利用者が一日の大半を過ごすリビングの窓は大きく、明るい。利用者と職員の共同の作品や写真などが飾られている。また、温度、光、音などに配慮し、利用者にとって居心地がよい環境作りを心がけている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールで唄やゲームを楽しんだり、ベットの横になってテレビを見たり、思い思いに過ごしている。夜気のあった友人はソファでテレビを見ながら話をする人、他の部屋を訪問し皆でお話している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を持ってくる人もいる。鏡台に向かい化粧をする、ゆったりした椅子に座り毎日新聞を読む人。買物に行きご自分の好みの物を購入して使用している。夫の写真を仏壇に飾る人、押入れにしまう人もいる。	各居室は利用者の使い慣れた机やパソコンなどが持ち込まれている。家具などは利用者の身体状況を視野に入れ、家族とも相談しながら配置を決めている。居室には温湿度計を設置すると共に喚起にも配慮し、快適な居室になるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	男性であれば、包丁研ぎやフライパンを直したり、女性であれば、洗濯物や料理、テーブル拭きやお茶菓子を配る、食事の配膳、お茶をつぐ等出来るよう声かけし一緒に行うなど自立した生活を支援している。ぬかみそつけてあげるよと言ってくれる人もいる。		